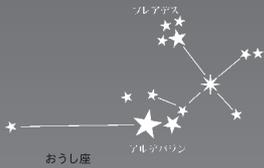


ポラリスを仰ぐ北の大地から



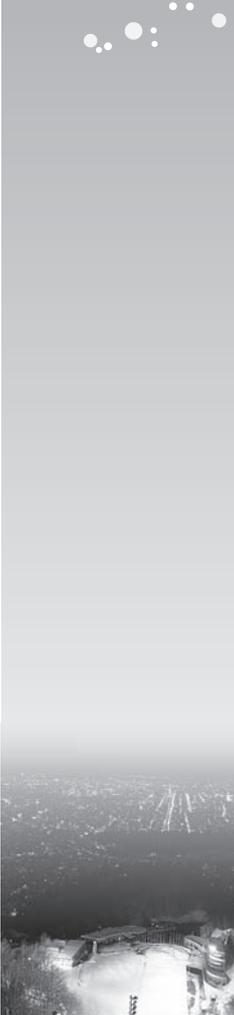
近況報告

寿都医師会 前会長 秀毛 寛己

4月以後、勤務先変更に伴い、生活の様相が今までと正反対と言ってもいいくらいガラッと変わりました。まず、外来が平日午前午後全単位から2単位に、日当直が365日全部から平日10回前後と、そして土日休日や祝日は基本的に札幌の自宅に休前日の勤務終了後から帰れるようになったのです。考えてみればこれが普通なのでしょうが、いつしか慣れっこになっていたことなので気持ちの上でいまだに違和感が払拭できていません。同じような形態の地域の病院なのに景色が180度違って見えるような感じです。イグノーベル賞の股のぞきをして眺めた景色への改めての驚きと同様かも思ったりします。

郡市医師会も現在、胆振西部と寿都に属しています。平成17年の春に仕方なく引き受けたころより寿都医師会長を最長10年との約束のもとでやってきましたが、諸事情がありやっと今年の8月末で解放されました。考えてみればこの11年間はいろいろありました。北海道の郡市医師会中最も小さいのにもかかわらず、正直、最も悪目立ちした医師会だと思っています。見方を“股のぞき”風にポジティブにかえれば、個人的には短気で血の気の多い私にとってはいろいろと精神修養をさせて貰ったと言えないこともないのでしょうか。予定が1年以上遅れましたが、9月より後任の祁答院会長の元で無事、新たな寿都医師会の船出となりました。在任中の非礼を詫び、またお礼を申し上げますとともに、道医や後志ブロック各医師会の先生方や事務局の諸氏諸嬢はもとより各郡市医師会の皆様の温かいご指導を今後も引き続きよろしくお願い致します。

土日の食事メニューに悩まされることになった妻と同様、休日の有意義な過ごし方に戸惑っている私の近況報告です。



倶知安町無形民俗文化財

羊蹄医師会 会長 皆川 幸範

平成28年8月6日倶知安駅右横で「太鼓のロクさん」の銅像披露式典が行われました。

この銅像は全国の多くの人たちの寄付によって完成したもので、両手でバチを振り上げたロクさんの雄姿を表現しています。羊蹄太鼓保存会会長と倶知安町長のあいさつの後に保存会メンバーによる太鼓演奏が行われ、私も参加して太鼓をたたきました。多くの外国人が写真を撮っていました。

「太鼓のロクさん」は本名高田緑郎といい、旧国鉄に勤めながら、そして定年後も太鼓の作曲演奏を続けました。社会人野球でJRの試合があると、札幌へも東京ドームへも出かけて行って和太鼓で応援しました。幼稚園や小中学校へ足を運び子どもたちに太鼓を教え、養護学校や老人ホームを慰問しては「人間って温かいもんだよ」と太鼓を通じて人と人、人と地域を結んできました。「羊蹄太鼓」は北海道和太鼓の歴史の中でも最も古く創作以来53年になります。平成9年「羊蹄太鼓は未来へ継承すべき郷土芸能である」とのことで、倶知安町無形民俗文化財に指定されました。ロクさんの遺志を受け継ぎ、羊蹄太鼓保存会は郷土芸能の伝承普及活動を行っています。毎年「くっちゃんじゃが祭り」では、北海道内の太鼓団体が多数共演していますが、今年は北海道太鼓連盟創立30周年記念として10月8日に当地で北海道太鼓フェスティバルが開催されました。ロクさんは平成22年95歳の人生を全うし永眠されましたが、太鼓の共演は平成14年から継続しており今年は20数団体の参加がありました。

ロクさんは生前私の診療所にも通院していたので、その人柄やいつも笑顔で誰とでも挨拶を交わし、話をしては皆が笑顔になったのを記憶しています。

ダンダダンダダン、ダンダダンダ・・・

「ロクさん！今日は秋晴れの羊蹄山、200点満点だよ」。